第八講　古文常識問題

一

問1　「寅の刻」が示す時間として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　午前零時頃　　イ　午前二時頃　　ウ　午前四時頃
エ　午前六時頃　　オ　午前八時頃

問2　「丑寅より未申まで」を現代語に訳せ。

問3　「つごもり」の意味として正しいものを次の中から選べ。

ア　昨晩　　イ　早朝　　ウ　月の初め　　エ　月末

二

問1 「長月」は陰暦の何月のことか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア 七月　イ 八月　ウ 九月　エ 十月　オ 十一月

問2 「みな月」は旧暦の何月のことか。正しいものを次の中から選べ。

ア 三月　イ 六月　ウ 七月　エ 九月　オ 十月

問3 次の文章は『笈の小文』の一節である。読んで、後の問に答えよ。

神無月の初め、空定めなき気色、身は風葉（ふうえふ）の行末（ゆくすゑ）なき心地して、

旅人とわが名よばれん初しぐれ

　また山茶花を宿々にして

岩城の住、長太郎といふ者、この脇を付けて、其角亭において関送りせんともてなす。

時は［Ⅰ］吉野を籠めん旅のつと

この句は、露沾（ろせん）公より下し給はらせ侍りけるを、はなむけの初めとして、旧友・親疎・門人等、あるは詩歌文章をもて訪（とぶら）ひ、あるは草鞋（わらぢ）の料（れう）を包みて志をあらはす。

露沾公……陸奥国磐城平藩主内藤義泰の子、義英。俳人。

問 空欄［Ⅰ］に入る最も適切な語を次の中から選べ。

ア 春　イ 夏　ウ 秋　エ 冬

三

問1 「九月九日」の節供を何というか。正しいものを次の中から選べ。

ア 七夕　イ 端午　ウ 上巳
エ 人日　オ 重陽

問2 「時雨」と同じ時期の景物として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア ほととぎす　イ 紅葉
ウ 藤　エ うぐひす

問3 「さそふ水あらばあらばと蛍かな」の句の季語は「蛍」であるが、その季節は何か。最適なものを次の中から選べ。

ア 春　イ 夏　ウ 秋
エ 冬　オ 新年

問４　次の文章は、江戸時代の俳人松尾芭蕉の紀行文『おくのほそ道』の一節である。本文を読んで、後の問に答えよ。

とかくして越え行くままに、阿武隈川（あぶくまがは）を渡る。〈中略〉まづ、「白河の関いかに越えつるや」と問ふ。「長途（ちようど）の苦しみ、身心つかれ、かつは風景に魂うばはれ、懐旧に腸（はらわた）を断ちて、はかばかしう思ひめぐらさず。

　風流の初めや奥の田植歌

無下（むげ）に越えんもさすがに」と語れば、〈中略〉…

　栗といふ文字は西の木と書きて、西方浄土に便りありと、行基菩薩の一生杖にも柱にもこの木を用ゐ給ふとかや。

世の人の見付けぬ花や軒の栗

　〈中略〉

早苗とる手もとや昔しのぶ摺

問　傍線部はどの季節をよんだ句か。正しい季節を次の中から選べ。

ア　春　　イ　夏　　ウ　秋　　エ　冬

四

問1　「素盞嗚（すさのを）の三十文字（みそもじ）余り一文字（ひともじ）」について、次の問に答えよ。

（一）「三十文字余り一文字」とは何を指しているか答えよ。

（二）『古今和歌集』「仮名序」が引用する、「素盞嗚尊（みこと）」の詠歌を次に挙げている。そのうちの空欄［　　］に入るべき語を後の中から選べ。

八雲立つ［　　］八重垣妻籠めに八重垣つくるその八重垣を

ア　吾妻　　イ　出雲　　ウ　白波
エ　八重　　オ　八雲　　カ　我家

問2 次の空欄[A]、[B]のそれぞれに入るべき表現を、『古今和歌集』「仮名序」の後に挙げる部分から選び、記せ。（順不同）

[A]の心をもなだめ、[B]の心にもあはれと思ふは此の歌なりと、古今の序に侍るも、げにとおぼえて、…

> 『古今和歌集』「仮名序」
>
> やまとうたは、人の心を種として、よろづのことのはとぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女の仲をもやはらげ、猛き武士の心をも慰むるは歌なり。

五

問１　「そのあたりに築地（Ⅰ）など崩れたるが、さすがに蔀（Ⅱ）など上げて、簾掛け渡してある人の家あり。」の傍線部Ⅰ、Ⅱの語の読みを歴史的仮名遣いで記したものとして、最も適当なものを次の中からそれぞれ選べ。

Ⅰ　ア　しばがき　　イ　すいがい　　ウ　ついぢ
　　エ　つちかべ　　オ　まがき

Ⅱ　ア　かうし　　イ　きちやう　　ウ　しとみ
　　エ　つまど　　オ　とばり

問２　次の傍線部Ａ・Ｂの漢字の読みを平仮名の現代仮名遣いで記せ。

帝（みかど）、小蔀（Ａ）より御覧じて、…
御簾（Ｂ）の外（と）にも出で給はず、…

Ａ＝　　　　Ｂ＝

問3　「格子」の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

問4　「この天暦（てんりやく）の御時に、［Ⅰ］の御前の梅の木の枯れたりしかば、…」について、次のそれぞれの問に答えよ。

（一）　傍線部「天暦の御時」とはどの天皇の時代か。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　醍醐（だいご）天皇　　イ　一条天皇　　ウ　村上天皇

エ　堀河天皇　　オ　鳥羽（とば）天皇

（二）　空白部［Ⅰ］に入る常の天皇の居所を表す語を、次の中から選べ。

ア　弘徽殿（こきでん）　　イ　登華殿（とうかでん）　　ウ　仁寿殿（じじゅうでん）　　エ　後涼殿（こうりょうでん）　　オ　清涼殿（せいりょうでん）

六

問1　次の文章は『更級日記』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

霜月の二十余日、※石山に参る。雪うち降りつつ、道のほどをさへをかしきに、［X］の関を見るにも、昔越えしも冬ぞかしと思ひ出でらるるに、そのほどしも、いとあらう吹いたり。

［X］の関のせき風ふく声はむかし聞きしにかはらざりけり

〈中略〉三日（石山に）さぶらひてまかでぬ。

そのかへる年の十月二十五日、※大嘗会の※御禊とののしるに、…

注　石山…近江国にある石山寺。
　　大嘗会…天皇が即位して最初に行う新嘗祭。
　　御禊…大嘗会に先立って行われる禊（みそぎ）。

問　空欄［X］に入る地名として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　逢坂　　イ　山城　　ウ　信楽
エ　枚方　　オ　米原

問２　「震旦」とは、現在のどこの国を指すか。漢字二文字で記せ。

問３　「常州」「濃州」の現在の県名をそれぞれ漢字で答えよ。

常州＝　　　　濃州＝

【第八講】

〔解答〕

一
問1 ウ　**問2** 北東から南西まで　**問3** エ

二
問1 ウ　**問2** イ　**問3** エ

三
問1 オ　**問2** イ　**問3** イ　**問4** イ

四
問1 **(一)** 和歌　**(二)** イ　**問2** 目に見えぬ鬼神、猛き武士（順不同）

五
問1 **Ⅰ** ウ　**Ⅱ** ウ　**問2** **A** こじとみ　**B** みす
問3 こうし　**問4** **(一)** ウ　**(二)** オ

六
問1 ア　**問2** 中国　**問3** **常州** 茨城県　**濃州** 岐阜県

〈現代語訳〉

二

問３　十月の初め、空がはっきりしない様子で、我が身は風に吹かれる葉のように行く先が定まらない気持ちがして、
旅人と…＝旅人と呼ばれよう、初時雨のときに
また山茶花を…＝また山茶花を宿ごとに眺めて
岩城の住人、長太郎という者が、この（山茶花の）脇句を付けて、其角亭で見送りをしようともてなす。
時は冬…＝時は冬だが吉野でつめよう旅のお土産〔＝旅のお土産に吉野で和歌を詠んできてくれ〕
この句は、内藤義英からいただきましたが、旅の餞別の最初で、旧友・親類・弟子たちなど、ある者は詩歌や文章をもって訪ねてきて、ある者は草鞋の料金を包んで気持ちを表す。

三

問３　誘う水があっちにあるならば、こっちにあるならば、と蛍が飛んでいるなあ

問４　あれやこれやして越えて行くうちに、阿武隈川を渡る。〈中略〉まず、「白河の関はどのように越えたか」と問う。「長い旅路の苦しみで、心身疲れて、一方では風景に心を奪われ、昔のことに懐かしむ気持ちに耐えきれなく感動して、（感動のあまり）しっかりと思いをめぐらせない。
風流の…＝風流の初めは、奥州の田植えの歌（を聞くことから始まったの）だなあ
ひどく（白河の関を）越えるようなのもそうはいってもやはり（良くないので作った句である）」と語ると、〈中略〉…栗という文字は西の木と書いて、西方浄土に関係があると、行基菩薩が一生杖にも柱にもこの木を使いなさるとかいうことだ。
世の人の…＝世間の人の目にもとまらない花よ、軒の栗よ
〈中略〉
早苗とる…＝早苗を取る手元は昔しのぶ摺り（をした手元と同じかと、昔が偲ばれるなあ）

四

問2　目に見えない鬼神の心をもなだめ、猛々しい武士の心にもしみじみと思うのはこの和歌であると、古今和歌集の序にもございますのも、なるほどと思われて、…

※『古今和歌集』「仮名序」
和歌は、人の心を種として、多くの言葉となった。世の中にいる人、出来事は多くあるので、心に思うことを、見るもの聞くものにつけて、言い出したのである。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞くと、生きているものすべて、誰が歌を詠まないか、いや、詠む。力を入れないで天地を動かし、目に見えない鬼神をもしみじみと感動させ、男女の仲を和らげ、猛々しい武士の心をも慰めるのは歌である。

五

問1　その付近に土塀などが崩れているが、そうはいってもやはり蔀〔＝格子組の裏に板を張った戸〕などを上げて、簾をかけて渡している人の家がある。

問2　**A**　帝が小蔀〔＝小さな窓にある蔀〕からご覧になって、…
B　御簾〔＝貴人の部屋の簾〕の外にも出なさらず、…

問4　この天暦〔＝村上天皇〕の御代に、清涼殿の前の梅の木が枯れたので、…

六

問1　十一月の二十日過ぎに、近江国にある石山寺に参詣する。雪が降り続け、道中の様子までもがしみじみとして、逢坂の関を見るにつけても、昔越えたのは冬だったよとつい思い出して、ちょうどその時、たいそう激しく（風が）吹いた。
逢坂の…＝逢坂の関を吹く風の音は、昔聞いたときと変わらないなあ
〈中略〉三日間（石山寺に）参籠して退出した。
その翌年の十月二十五日、大嘗会の禊と大騒ぎしていると、…